

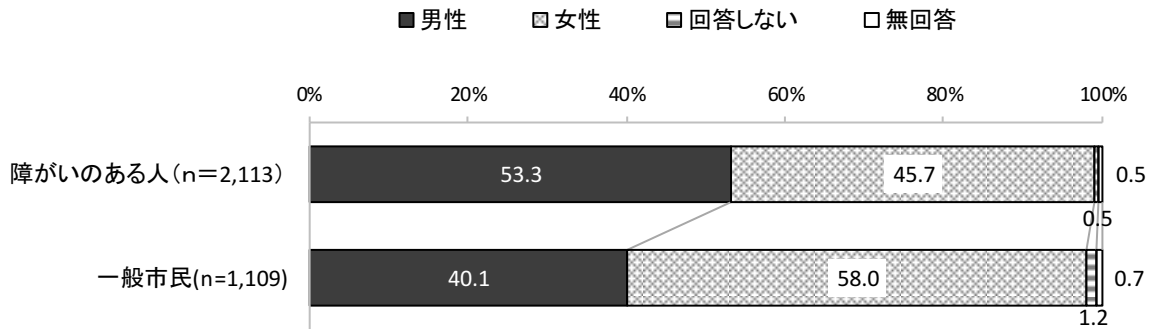
iii 障がいのある人と一般市民の比較

1. 属性・暮らし・日常生活について

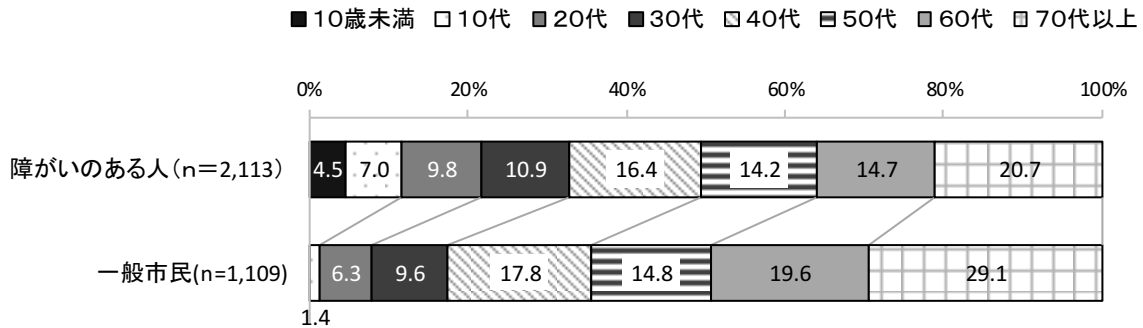
(1) 本人の属性

問 はじめにご本人のことについて、お伺いします。

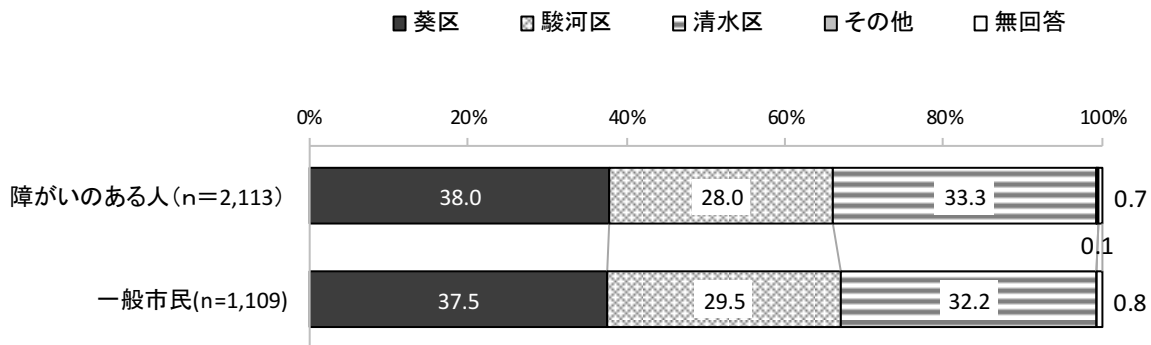
【性別】



【年齢】



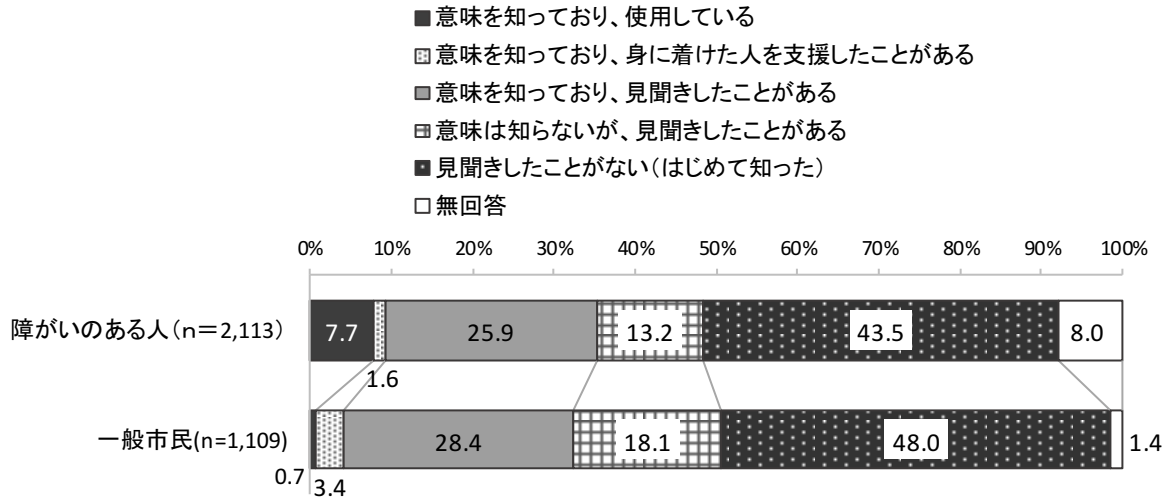
【居住地】



(2) ヘルプマークの認知

問 あなたは、ヘルプマークを知っていますか。(○は1つ)

障がいのある人、一般市民ともに「見聞きしたことがない」が4割台で最も多い。次いで「意味を知っており、見聞きしたことがある」が2割台となっている。

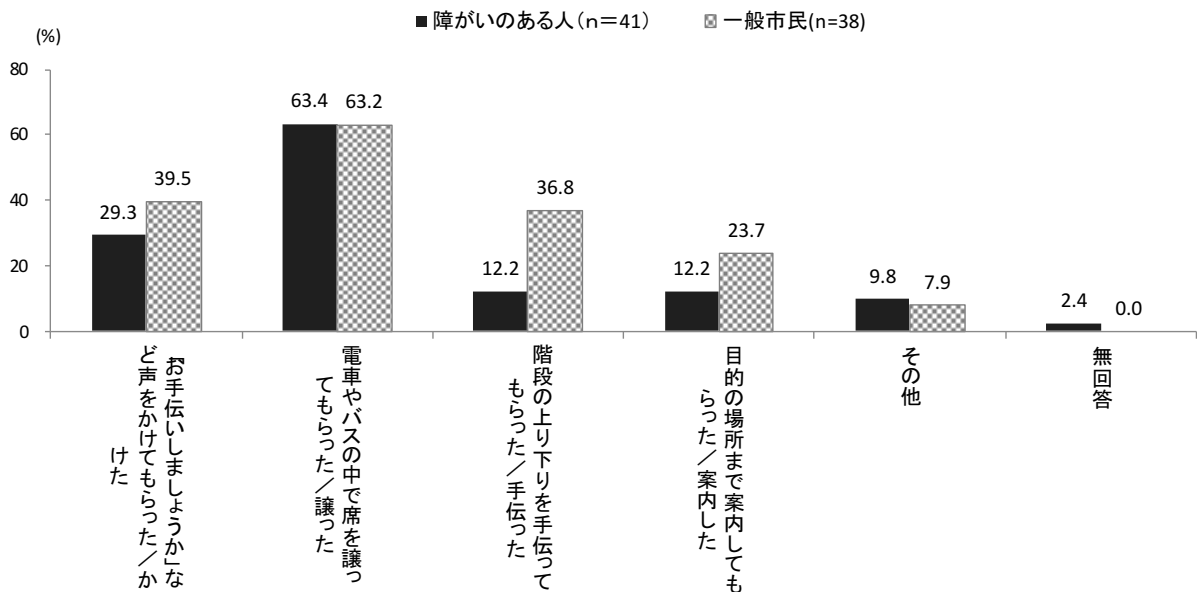


(3) ヘルプマーク利用者への支援

(障がいのある人)「ヘルプマークの意味を知っており、使用している」と回答した人
 (一般市民)「意味を知っており、身に着けた人を支援したことがある」と回答した人

(障がいのある人)
 問 どんな支援を受けることができましたか。(○はいくつでも)
 (一般市民)
 問 どんな支援をしましたか。(○はいくつでも)

どちらもサンプル数が少ないため参考程度だが、障がいのある人、一般市民ともに「電車やバスの中で席を譲る」が最も多かった。



2. 地域での生活について

(1) 障がいのある人が地域で生活するために必要なこと

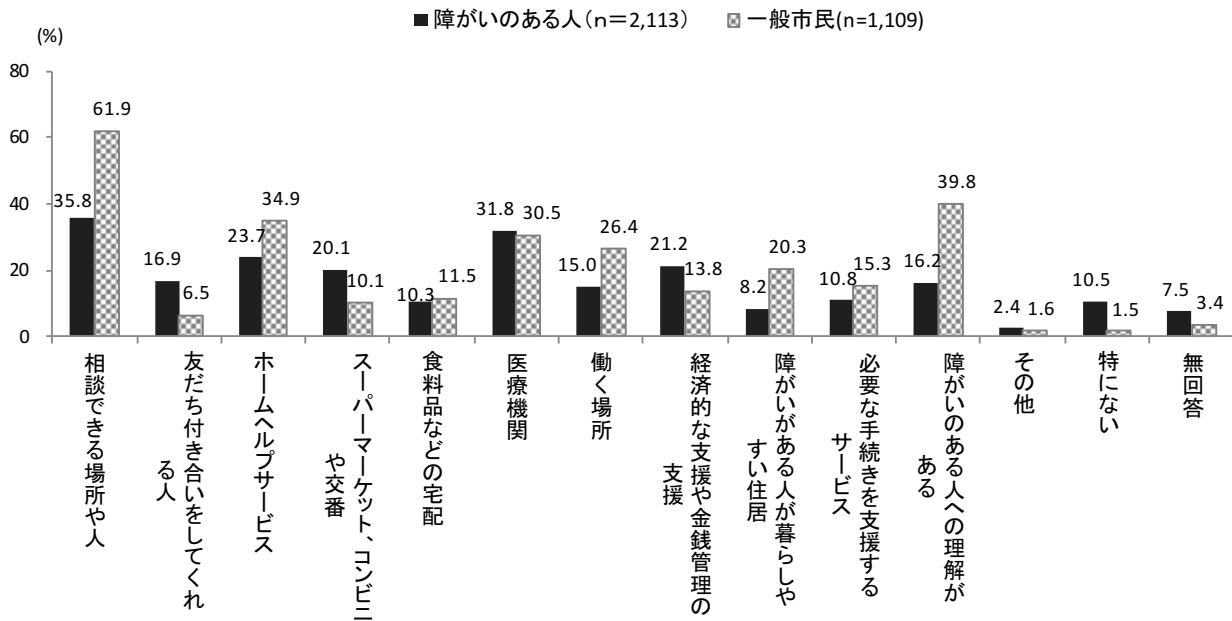
(障がいのある人)

問 あなたは、お住まいの地域で生活するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

(一般市民)

問 あなたは、障がいのある人が地域で生活するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

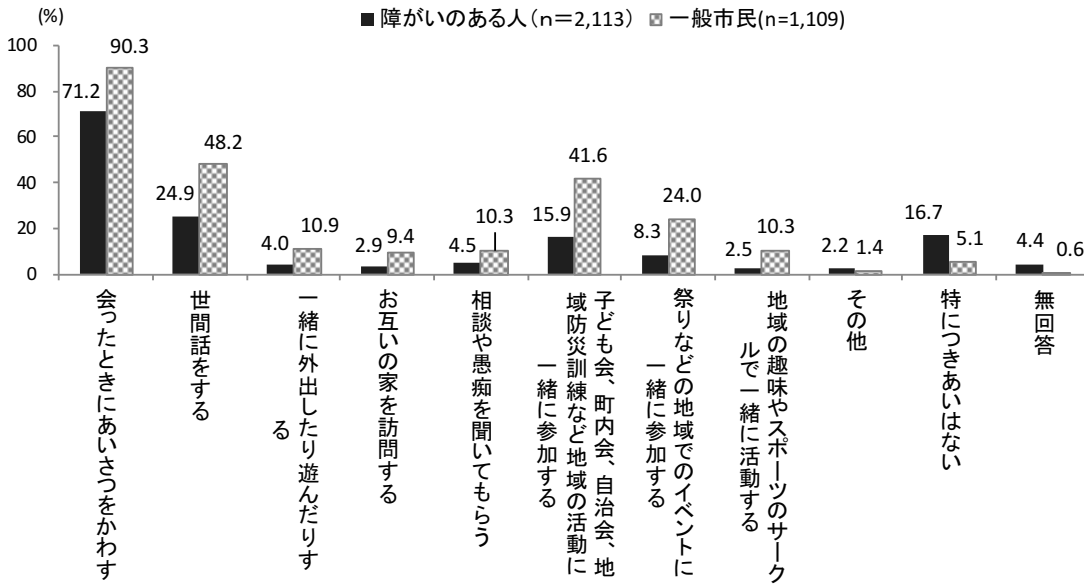
障がいのある人で最も要望の多い「相談できる場所や人」については、一般市民も必要なこととして認識している。「経済的な支援や金銭管理の支援」「スーパーマーケット、コンビニや交番」「友だち付き合いをしてくれる人」については、一般市民の認識以上に障がいのある人は必要性を感じている。



(2) 近所・地域の人との関わり方について

問 あなたは、近所・地域の人との程度のつきあいをしていますか。
 (障がいのある人…○は3つまで／一般市民…○はいくつでも)

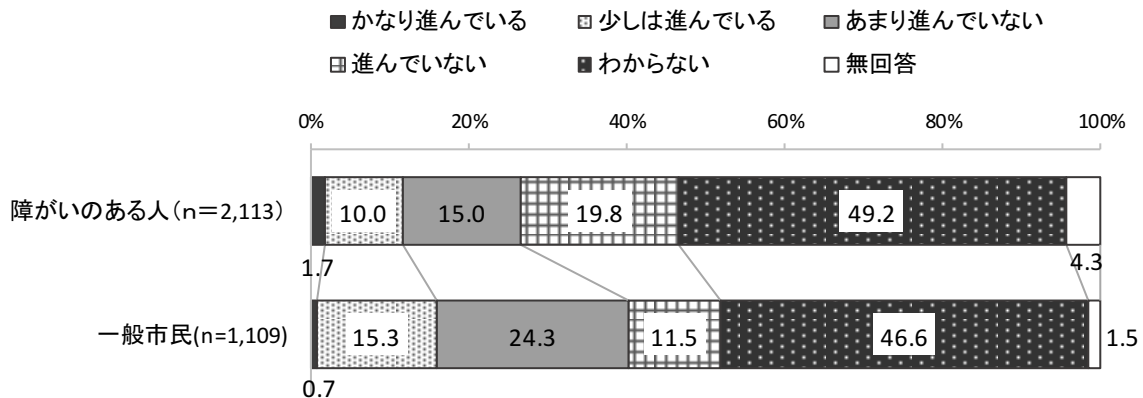
近隣・地域の人とのつきあいについて、障がいのある人、一般市民ともに「会ったときにあいさつをかわす」がトップ。次いで「世間話をする」「地域の活動と一緒に参加する」と続く。



(3) 「地域における共生」の進捗状況

問 静岡市は、「地域における共生(障がいのある人もない人も、お互いに大切に、支え合い、地域で安心して自分らしく暮らすことができること)」ができる都市を目指しています。あなたの身近では、「地域における共生」がどの程度進んでいると思いますか。(○は1つ)

「地域における共生」の進捗に対する考えは、一般市民よりも障がいのある人で「進んでいない」と感じる人の割合が高くなっている。



(4) 障がいのある人が支援してもらいたいこと、できること

(障がい者)

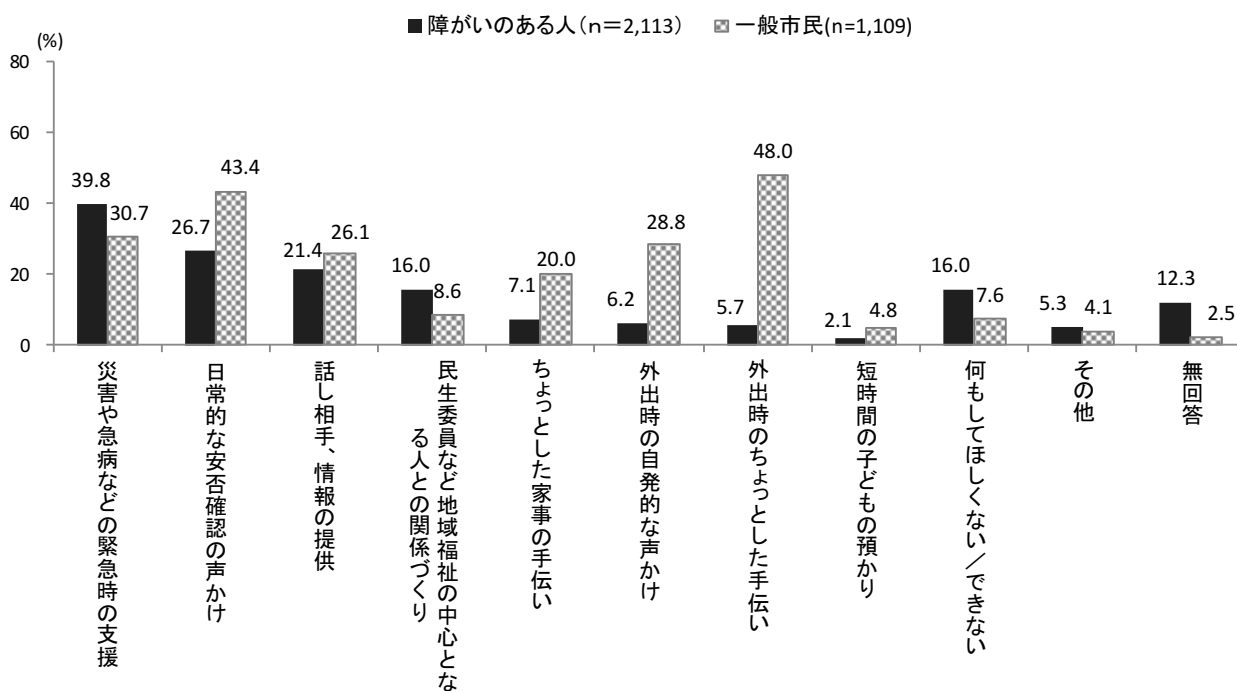
問 あなたは、近所・地域の人にどのようなことを支援してもらいたいですか。(〇はいくつでも)

(一般市民)

問 あなたがお住まいの地域で障がいのある人が困っていたら、その人に対してできることは何ですか。

(〇はいくつでも)

地域で生活する上での障がいのある人の要望と一般市民の支援意向を比較すると、障害のある人では「災害や急病などの緊急時の支援」が39.8%で最も高くなっているが、一般市民が30.7%となっており、支援意向のある人の割合は比較的高め。



3. 災害対策について

(1) 障がいのある人が災害時に困ること

(障がいのある人)

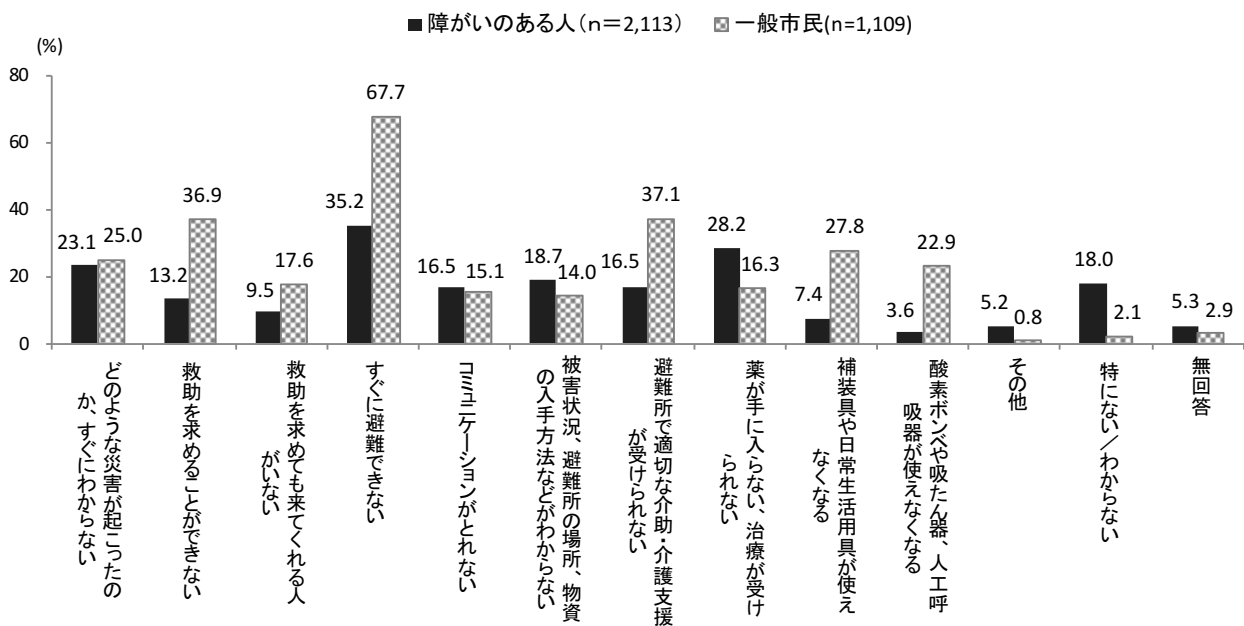
問 あなたが、地震や台風などの災害のときに特に困ることはなんですか。(〇は優先順位の高いものを3つ)

(一般市民)

問 あなたは、障がいのある人が地震や台風などの災害のときに特に困ることはどんなことだと思いますか。

(〇は優先順位の高いものを3つ)

障がいのある人が災害時に困ることについて、大半の項目において障がいのある人と同等、もしくは障がいのある人以上に一般市民の認識が高くなっている。「薬が手に入らない、治療が受けられない」については、一般市民の認識以上に障がいのある人は必要性を感じている。



(2) 避難行動要支援者のために災害時の備えとして取り組むべきこと

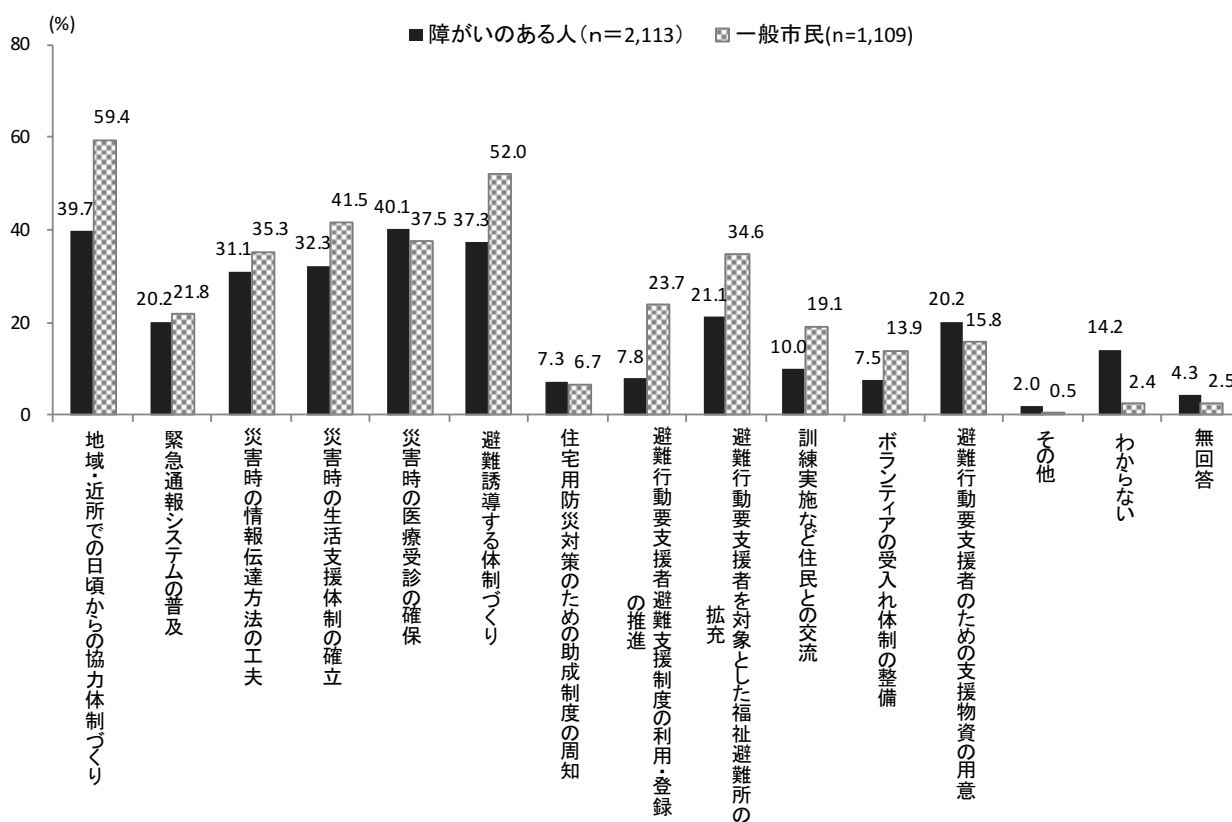
(障がいのある人)

問 あなたは、地震や台風などの災害時に備え、高齢者、障がいのある人などの避難行動要支援者に対し、必要な取り組みはどれだと思いますか。(〇は優先順位の高いものを4つ)

(一般市民)

問 あなたは、地震や台風などの災害時に備え、高齢者、障がいのある人などの避難行動要支援者に対し、どのようなことに取り組むべきだと思いますか。(〇は優先順位の高いものを4つ)

避難行動要支援者のための災害時の備えについては、障害のある人は「災害時の医療受診の確保」が40.1%でトップ、「地域・近所での日頃からの協力体制づくり」が39.7%と僅差で続く。一般市民は「地域・近所での日頃からの協力体制づくり」が59.4%でトップとなっており、障がいのある人に比べて約20ポイント高くなっている。

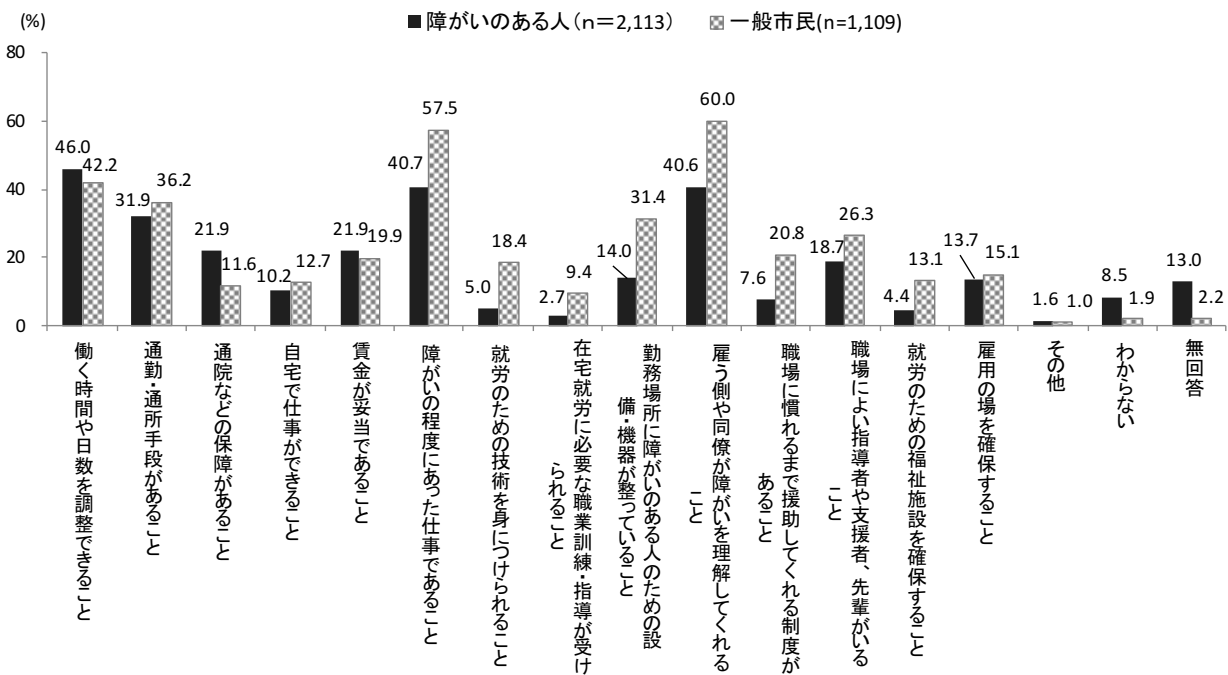


4. 障がいのある人の雇用・就労について

(1) 障がいのある人が働くために必要な環境整備

問 あなたは、障がいのある人が働くためには、主にどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(〇は優先順位の高いものを4つ)

障害のある人が働くための環境整備に関する認識について、障がいのある人と一般市民の認識はほぼ一致している。

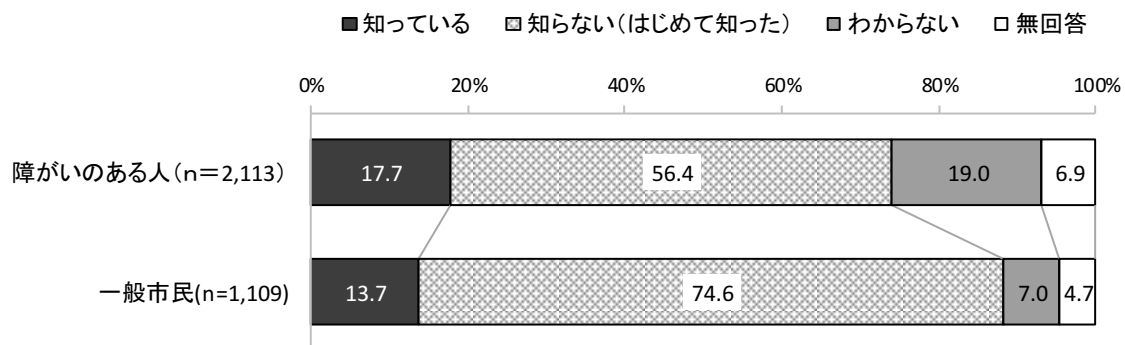


5. 障がいのある人への理解について

(1) 「障害者差別解消法」の認知状況

問 あなたは、平成 28 年4月1日から施行された「障害者差別解消法」を知っていますか。(○は1つ)

「障害者差別解消法」の認知率は、障がいのある人に比べて一般市民は「知らない」が高くなっている。



(2) 障がいのある人への差別・偏見について

(障がいのある人)

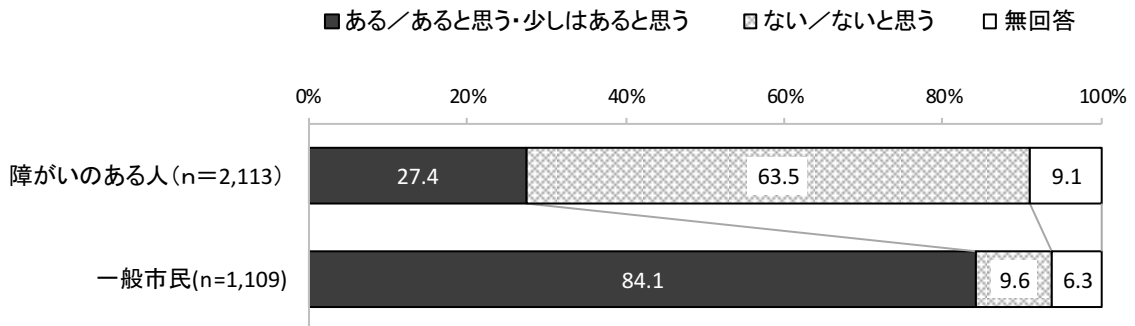
問 あなたは、障がいを理由に差別を受けたり、いやな思いなどをしたことがありますか。(○は1つ)

(一般市民)

問 あなたは、社会が障がいのある人に対し、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。(○は1つ)

障がいのある人への差別・偏見についての認識は、障がいのある人と一般市民で大きなギャップがあり、「ある」と答えた人の割合は、障がいのある人で27.4%、一般市民で84.1%（「あると思う」と「少しはあると思う」合計）となっており、障がいのある人が感じている以上に一般市民は差別・偏見があると感じている。

また、差別・偏見を感じる場面については、障がいのある人と一般市民の認識はほぼ一致しているが、「道路が狭く、段差も多く、スロープもない」について障がいのある人よりも一般市民で高い数値となっている。



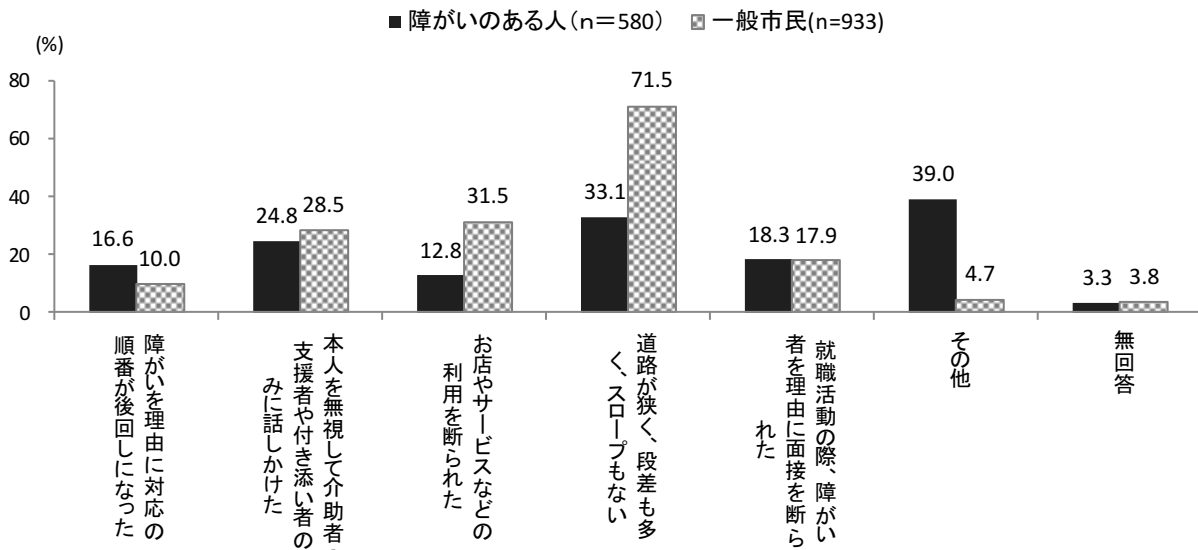
(前問で「ある」「あると思う・少しはあると思う」と答えた方にお伺いします。)

(障がいのある人)

付問① どのような差別を受けたり、いやな思いをされましたか。(○はいくつでも)

(一般市民)

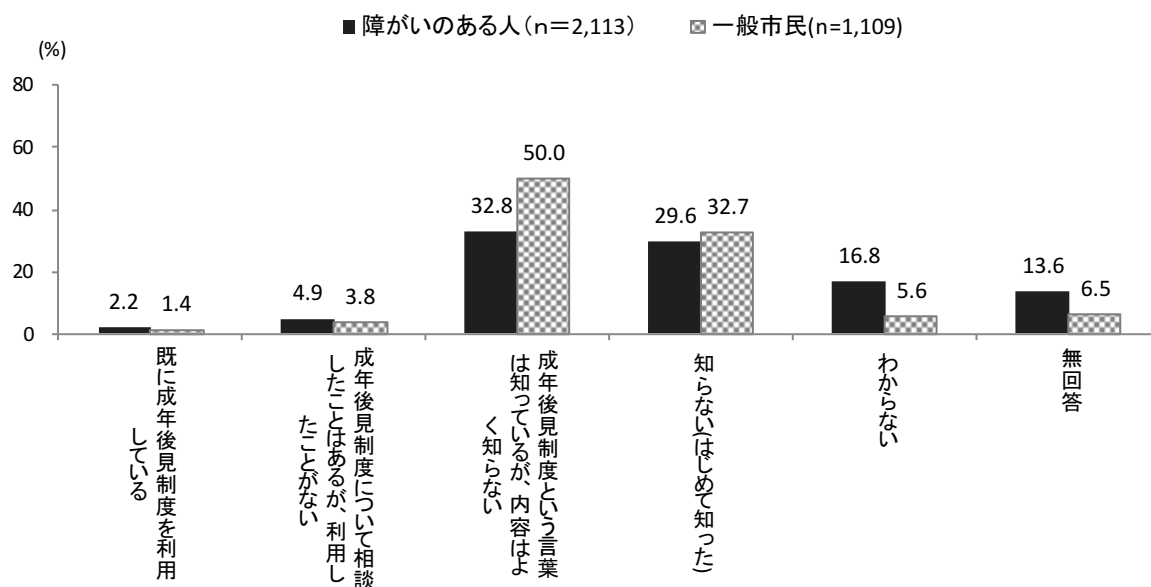
付問① 障がいのある人に対して、差別や偏見があると感じるのは、どのようなときですか。(○はいくつでも)



(3) 「成年後見制度」の認知状況

問 あなたは、「成年後見制度」があることを知っていますか。(○は1つ)

「成年後見制度」の認知率は障がいのある人と一般市民で大きな差はない。



6. 障がい福祉に関する施策について

(1) 障がい福祉事業への要望

問 あなたは、障がいのある人が安心して暮らしていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は7つまで)

障がい福祉事業へのニーズについて、障がいのある人と一般市民を比較すると、障がいのある人では「手当・年金などの経済的な支援の充実」が最も高くなっているが、一般市民では「就労支援」がトップとなっている。

